

# 「状況の定義」と他者認知

## ——「人-役割図式」論の検討をとおして——

東北大学 木村雅史

### 1 目的

本報告の目的は、アーヴィング・ゴフマン『フレーム分析』(Goffman 1974)のなかで展開されている「人-役割図式」論の検討を通して、「状況の定義」と他者認知に関するゴフマンの視角を明らかにすることである。こうした作業を通して、「状況の定義」の獲得という観点から、役割とパーソナリティーの関係性について論じたゴフマンの視角、その意義を提示する。

### 2 方法

本報告では、まず、ゴフマンが役割とパーソナリティーの関係性について集中的な考察を加えている「役割距離」論文(Goffman 1961)を検討し、ゴフマンの理解を確認する。その上で、「状況の定義」論への関心がより強く打ち出されている「人-役割図式」論を検討し、「状況の定義」の獲得という観点から役割とパーソナリティーの関係性について論じたゴフマンの視角を再構成する。

### 3 結果

考察の結果、人々が「状況の定義」を獲得していく際、他者認知のパターン(他者をいかなるカテゴリーで認知するのか)が重要な資源となっていることが明らかになる。ゴフマンによれば、相互行為秩序のなかにある人々の注意は、認知的に最適な「状況の定義」を獲得するプロセスにおいて、当の状況下で、個人が演じる役割と役割の背後にある個人のパーソナリティーの連続体のどこかに焦点化される。

たとえば、手術中に冗談を言う外科医Aの行動に対して、いつもAの手術をサポートしている看護師Bは、患者や他のスタッフの緊張を緩和しようとしている役割距離行動と解釈し、いつも通り順調に手術が行われていると思うかもしれない。しかし、初めて手術を受ける患者Cにとって、このAの行動は常軌を逸した行動に映り、手術に大きな不安を感じるかもしれない。このように、同じAの行動に対して、Bは役割距離に焦点を当て解釈するし、Cは役割の背後にあるパーソナリティーに焦点を当て解釈している。Aをどう認知するのかによって、BとCそれぞれが獲得する「状況の定義」もまた異なってくるのである。

### 4 結論

以上の議論から、ゴフマンが「人-役割図式」論で提示したのは、「状況の定義」と他者認知との機能的な関係性を問題化する視角であったと結論づけることができる。

たとえば、感情労働論は、感情マニュアルや感情規則のジレンマを問題化する際、役割とパーソナリティーの関係性について記述、分析している。また、難波(2007)は、1960年代、ロンドンの若者の間で流行したモッズ(スクーター・ボーイズ)文化を分析する際、「人-役割図式」論の枠組を用いて、モッズの意味世界(=「状況の定義」)やアイデンティティー同定(=他者認知)について記述している。

「人-役割図式」論が示しているように、他者がいかなるカテゴリーで認知され、記述されていくのかは、その場の相互行為秩序や、そこでパターン化されている「状況の定義」と機能的な関係性をもっている。こうしたゴフマンの視角は、上記のような研究に対して、個別的な相互行為秩序に根ざした記述の枠組みを提供するものとなる。

### 文献

Goffman, E., 1961, *Encounters: Two Studies in the Sociology of Interaction*, The Bobbs-Merrill Company. (=1985, 佐藤毅・折橋徹彦訳『出会い——相互行為の社会学』誠信書房.)

———, 1974, *Frame Analysis: An Essay on the Organization of Experience*, Northeastern University Press.

難波功士, 2007, 『族の系譜学——ユース・サブカルチャーズの戦後史』青弓社.